

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：33908

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00316

研究課題名（和文）対馬に於ける文禄・慶長の役関連言説の生成・変容とその背景

研究課題名（英文）The emergence and transformation of discourses related to the Bunroku-Keicho War in Tsushima and their background

研究代表者

徳竹 由明 (TOKUTAKE, Yoshiaki)

中京大学・文学部・教授

研究者番号：30387609

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 800,000円

研究成果の概要（和文）：対馬藩の対外戦争関連に関わる資料を、長崎県対馬歴史研究センターの宗家文庫を中心に精力的に調査を実施した。その結果としてかなりの数の文禄の役に関連する資料を発掘した。特に対馬藩士大石氏に関わる資料が興味深く、合戦の武功と共に虎狩での活躍も功績として認められ、武威の象徴として書き留められ伝えられていく様相が見て取れた。大石氏に関わる家譜資料は、詳細に研究した上で2度にわたり論文化して紹介した。また文禄の役の始発部に関する叙述の研究も行った。さらに対馬島内の踏査も数度にわたり実施し、その報告をも公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

人々、あるいは各地域が戦争（特に対外戦争）をどのように語り継ぎ、時には正当化してきたのかを考えるひとつのきっかけとなり得るものと考えている。更には多元的・多角的に戦争言説を分析する方法や重要性を考える一つのきっかけともなり得るものと考えている。

また、対馬島内のものをサンプルとして、地域ごとの言説や伝承・文芸を研究していく方法の提示にもなり得るのではないかと。

研究成果の概要（英文）：I conducted an intensive investigation of materials related to the Tsushima Domain's foreign wars, focusing mainly on the Soke Bunko Library at the Tsushima Historical Research Center in Nagasaki Prefecture. As a result, I unearthed a considerable number of materials related to the Bunroku War. In particular, the materials related to the Oishi clan, a samurai of the Tsushima Domain, were interesting, and I could see how their achievements in tiger hunting were recognized as achievements along with their military exploits in battle, and how they were written down and passed down as a symbol of military might. I studied the genealogical materials related to the Oishi clan in detail and presented them in two papers. I also conducted a narrative study of the beginning of the Bunroku War. I also conducted several surveys of Tsushima Island, and published reports on those surveys.

研究分野：日本文学

キーワード：文禄慶長の役 対馬藩 対外戦争 壬辰倭乱 虎狩

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 私は長年、日本と朝鮮半島との結節点である対馬島に於ける神功皇后「三韓出兵譚」・蒙古襲来譚等対外戦争に関する言説が、どのような背景のもと生まれ成長していったのか、主として近世期の対馬藩内で編まれた言説をもとに研究してきた。

(2) そうした背景もあり、対馬島、及び対馬藩宗氏が関わる前近代の対外戦争で、私の研究対象として最後に残った豊臣秀吉の朝鮮侵略(文禄・慶長の役)に関する対馬島内の言説について、どのような背景のもと生まれ、どのように成長してきたのかを、他藩の文献や『朝鮮太平記』等の文芸作品、時には海外の文献との比較・分析を通して明らかめようと思いついたのが、研究開始当初の背景である。

2. 研究の目的

(1) 日本と朝鮮半島との結節点である長崎県の離島対馬島を中世以来領有してきた大名宗氏は、地勢上、長年にわたり朝鮮王朝との通行を行い、且つ日本と朝鮮王朝との外交を取り仕切ってきた。そうした背景もあり、豊臣秀吉の朝鮮侵略、いわゆる文禄・慶長の役に際しては、出兵前の朝鮮王朝との交渉を担わされ、交渉決裂後の出兵に際しては当主義智は義父小西行長と共に先陣を担わされ、また秀吉の死による撤兵後は徳川家康によって講和交渉を担わされる等多様な役割を担ってきた。その宗氏・対馬藩が文禄・慶長の役をどのように叙述してきたのか。本研究は対馬藩内で著述された史書・系譜類等様々な文献を繙いて文禄・慶長の役関連言説を成立年代順に抜き出して整理する。その上で朝鮮半島で行動を共にしたことのある福岡藩・平戸藩等他藩の言説や『朝鮮太平記』『朝鮮軍記大全』等の文芸作品、海外の文献と比較・分析し、対馬藩の言説の特徴・独自性、そして経年変化の有無等を明らかめようとするものである。

(2) また私が以前に行ってきた神功皇后「三韓出兵」や蒙古襲来等の対馬島内の言説の特徴・独自性、そして経年変化の有無等との比較も行いたいと考えている。

(3) その他、対馬島内の文禄・慶長の役関連の史跡・伝承地、また以前の研究から引き続き対馬島内の対外戦争関連の縁起説を有する神社の踏査も積極的に行っていく。

3. 研究の方法

(1) まず最初に取り掛かるのは、近世初期から近代初期くらいまでの、対馬藩・宗氏及び対馬藩士の各家の文禄・慶長の役に纏わる言説を収集していくことである。具体的には『宗氏家譜』『対州編年略』『津島紀事』『楽郊紀聞』『宗氏家譜略』といった既に翻刻・影印等の出ている近世期の対馬の系譜類・史書・地誌、並びに近現代の『対馬島誌』『新対馬島誌』といった文献、加えて長崎県対馬歴史研究センター(宗家文庫等)・長崎歴史文化博物館(山口文庫等)を始めとした博物館・資料館等に存する対馬に関連する莫大な量の未紹介・未翻刻の文献も調査・撮影し、文禄・慶長の役に纏わる言説を抽出していく。

(2) 続いて福岡藩の『黒田家譜』、平戸藩の『吉野日記』等文禄・慶長の役に際し出兵し、対馬藩・宗氏とも行動を共にしたこともある藩の記録類を始めとした国内他地域の文献、『太閤記』類や『朝鮮征伐記』『朝鮮太平記』『朝鮮軍記大全』といった朝鮮軍記物類等の文芸作品、更には『懲愆録』『朝鮮王朝実録』等の国外の文献等も繙いて文禄・慶長の役に関する言説を抽出する。

(3) その上で対馬に伝存する言説と国内他地域・国外のものを比較・対照し、共通性・独自性を整理していく。共通性に関してはその影響関係を考察し、独自性に関しては時代ごとの対馬藩・宗氏の政治・経済・外交・社会・文化的状況等をも勘案しつつその性向を考察し、対馬での文禄・慶長の役を巡る言説がいつ頃どのような背景の下で編纂・創出され、どのように成長・変容していったのかを総合的に研究する。また既に研究済みである対馬の神功皇后「三韓出兵」や蒙古襲来等に関する言説の場合との比較も試みて、対馬に於ける対外戦争関連言説の体系的な把握も行っていく。

(4) その他、文献調査の合間を利用して、清水山城跡他、対馬島内の文禄・慶長の役関連の史跡・伝承地、また以前の研究から引き続き対馬島内の対外戦争関連の縁起説を有する神社の踏査と写真撮影を含めた現況の報告も、積極的に行っていく。

4. 研究成果

(1) 調査すべき文献が想像以上に多く、研究が思う通りには進まなかったが、まず挙げるべき成果は対馬藩士である大石党の家譜類の発見・紹介である。宗家文庫の『獲虎実録』なる写本の裏表紙内の反故紙に記されていた「大石氏家譜」断簡(仮題)の発見により、特に文禄の役で大いに活躍した党の主将である大石荒河介智久の著名な合戦や虎狩での功績の他の、今まで知ら

れていなかった業績の一部が判明した。また大石氏のその他 2 種類の家譜と合せて考察する事で、近世期の大石氏が、智久を始めとした先祖の文禄の役での功績を家の重大な歴史として伝え続けてきたこと、またそれらの事績が『宗氏家譜』等の藩内の編纂物や宗義智の「感状」によっても確認できる事等を明らかにした。

(2) 文禄の役の始発部に関して、特に日本の諸将の名護屋から壱岐・対馬を経て釜山へと渡航する経緯の叙述に関して、『宗氏家譜』等の対馬藩内での編纂物と、『黒田家譜』等の他藩の編纂物や『朝鮮太平記』等の文芸作品では、内容に大きな差異があることに関して考察を行った。『宗氏家譜』等対馬藩内での編纂物では、小西行長を主将とし宗義智の属する第一軍の第二軍以下に先行しての渡航をごく淡々と叙述する。これはごく自然な当たり前の叙述であるが、それに対して『黒田家譜』等は小西行長の策略により第一軍が抜け駆けを行ったかのように叙述し、行長を批判する。なお第一軍の渡航には当然宗氏の先導が必要であったはずであるが、宗氏への批判はなされていない。恐らくは黒田氏等が二陣以降に甘んじた理由を、関ヶ原の合戦で滅亡した小西行長を利用して説明した虚構であり、小西行長の女婿とはいえ現役の大名である宗氏への批判は殊更にしなかったものと考えられる。

(3) 対馬での現地踏査をも精力的に行った。現段階で文禄・慶長の役に関する伝承地の踏査報告は未定ではあるが、南室の南室島大明神・雞知の住吉神社等の対外戦争に纏わる縁起説を持つ神社の縁起説の検討と、踏査による現況報告を写真掲載を含めて行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 徳竹 由明	4. 巻 第57巻第2号
2. 論文標題 対馬藩士「大石氏家譜」の断簡を巡って 大石智久の文禄の役での武功譚・虎狩等	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中京大学『文学部紀要』	6. 最初と最後の頁 149-164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徳竹 由明	4. 巻 第58巻第2号
2. 論文標題 対馬藩士大石氏の家譜二種	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 中京大学『文学部紀要』	6. 最初と最後の頁 169-188
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徳竹 由明	4. 巻 第58巻第2号
2. 論文標題 対馬中部の対外戦争関連神社の縁起説と現況に関して（前編）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 中京大学『文学部紀要』	6. 最初と最後の頁 117-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徳竹 由明	4. 巻 第59巻第1号
2. 論文標題 文禄の役の際の諸将の釜山渡海を巡って 対馬藩の文献と他藩の文献や文芸作品との叙述の差異	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 中京大学『文学部紀要』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 徳竹 由明
2. 発表標題 対馬藩士大石氏系図の断簡を巡って 文禄慶長の役・虎狩の資料として
3. 学会等名 伝承文学研究会名古屋例会令和五年度一月例会 第十回名古屋中世文芸・歴史研究会 合同発表会合
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 徳竹 由明
2. 発表標題 対馬に於ける 異国襲来 言説の構造
3. 学会等名 伝承文学研究会京都・名古屋合同例会2022年1月例会（オンライン開催）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------